

▼キャッシュフローと累計金額予測 (①佐渡市奨学金制度+②医療技術者奨学資金貸与制度)

◆概況 (①佐渡市奨学金制度+②医療技術者奨学資金貸与制度)

佐渡市奨学金制度の2045年頃までのキャッシュフロー予測等について

- ・最大値として、2021年度に年間約4.2億円の貸出が必要になってくる。
- ・2045年度頃に、年間約2.3億円の予算額で漸近していく。
- ・2045年度頃までに、累計約86.6億円の予算を投入していることになる。

↓
佐渡市の奨学金制度を一本化、『佐渡市若者未来応援基金(仮称)』の設立提案について

私は、『佐渡市奨学金制度』と『佐渡市医療技術者奨学資金貸与制度』とを統合し、『佐渡市若者未来応援基金(仮称)』の設立をすることで、奨学金の『見える化』を行い、繰入金等の調整をするべきであると考えます。また、基金として明文化することで、将来は佐渡に戻って働こうと勉学に励む若者のために寄付をしたい、ふるさと納税をしたいという機運を今まで以上に高めることができるのではないかと考えます。そして、『佐渡市若者未来応援基金(仮称)』の設立により、平成30年4月1日に運用を開始した『佐渡市子ども未来応援基金』との連動による切れ目のない子育て支援が、基金としても実現できると考えます。

◆奨学生からの累計約86.6億円の回収の考え方について

- ・1学年あたり128人の奨学生がいると仮定する。
- ・奨学生128人は免除者67人(52.3%)、返還者61人(47.7%)と仮定する。
- ・2018~2045年度まで28年で128人×28年=3,584人の奨学生と仮定。

↓
地方交付税交付金年間約200億円÷人口56,000人≒36万円/人

免除者67人×36万円≒2,400万円/年

免除者67人×36万円×5年≒1億2,000万円

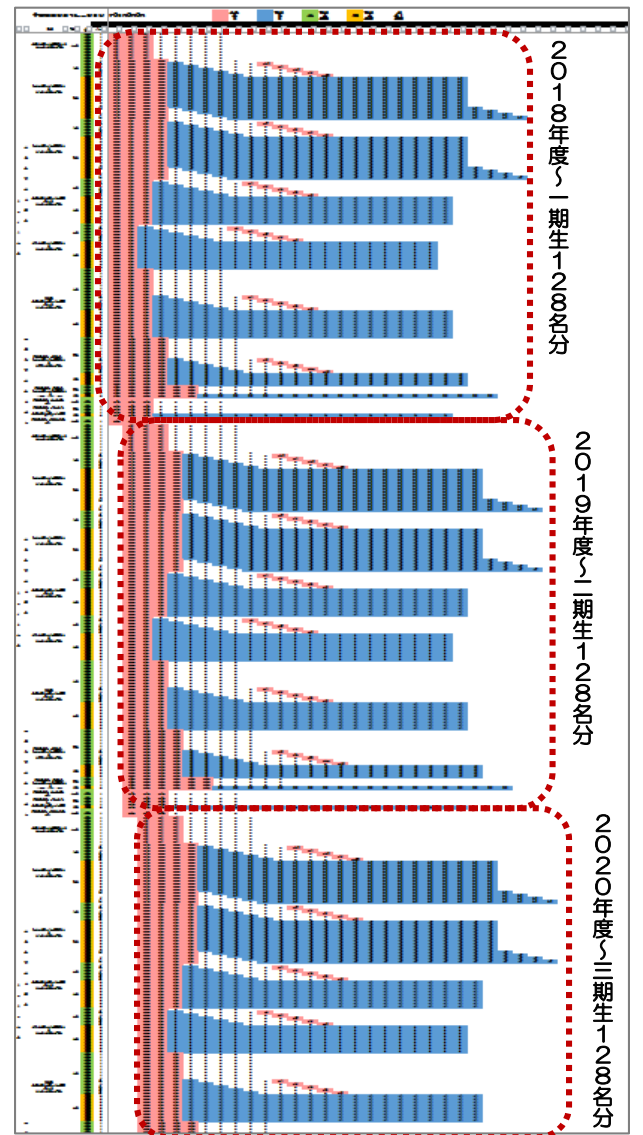
①05年定住：1億2,000万円×28年≒ 33億6,000万円

②10年定住：2億4,000万円×28年≒ 67億2,000万円

③15年定住：3億6,000万円×28年≒ 100億8,000万円>86億6,000万円

∴免除者には、平均して15年以上佐渡に定住してもらう必要がある。

◆考え方 ⇒ 縦軸(行)：各奨学生、横軸(列)：各年度



▼2018~2045年度毎のキャッシュフロー(青)と累計金額(赤)の予測 (単位：億円)

| 年度 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 | 2032 | 2033 | 2034 | 2035 | 2036 | 2037 | 2038 | 2039 | 2040 | 2041 | 2042 | 2043 | 2044 | 2045 |
|----------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| キャッシュフロー | -1.4 | -2.6 | -3.6 | -4.2 | -4.1 | -4.1 | -4.0 | -3.9 | -3.8 | -3.7 | -3.6 | -3.5 | -3.4 | -3.3 | -3.3 | -3.2 | -3.1 | -3.0 | -2.9 | -2.8 | -2.7 | -2.6 | -2.5 | -2.4 | -2.4 | -2.3 | -2.3 | -2.3 |
| 累計金額 | -1.4 | -4.0 | -7.6 | -11.8 | -16.0 | -20.1 | -24.0 | -27.9 | -31.7 | -35.3 | -38.9 | -42.3 | -45.8 | -49.1 | -52.4 | -55.6 | -58.6 | -61.6 | -64.5 | -67.2 | -69.9 | -72.4 | -74.9 | -77.3 | -79.6 | -82.0 | -84.3 | -86.6 |

